

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第2区分
 【発行日】平成19年11月8日(2007.11.8)

【公表番号】特表2006-528663(P2006-528663A)
 【公表日】平成18年12月21日(2006.12.21)
 【年通号数】公開・登録公報2006-050
 【出願番号】特願2006-521860(P2006-521860)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)
A 6 1 K 31/7088 (2006.01)
A 6 1 K 48/00 (2006.01)
A 6 1 P 35/00 (2006.01)
A 6 1 K 39/395 (2006.01)
A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 37/02 Z N A
 A 6 1 K 31/7088
 A 6 1 K 48/00
 A 6 1 P 35/00
 A 6 1 K 39/395 D
 A 6 1 K 39/395 N
 A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】
 【提出日】平成19年9月14日(2007.9.14)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】

哺乳動物において腫瘍応答を生成するために十分な量で、zveg f3アンタゴニストを薬学上許容される送達ベヒクルと組み合わせて含んでなる組成物において、当該zveg f3アンタゴニストが抗zveg f3抗体、分裂促進的に不活性なレセプター結合性zveg f3変異型ポリペプチド、および阻害性ポリヌクレオチドから成る群から選択される、哺乳動物における肝細胞癌を治療するための医薬組成物。

【請求項2】

肝細胞癌内の癌細胞の増殖を減少するために十分な量で、zveg f3アンタゴニストを薬学上許容される送達ベヒクルと組み合わせて含んでなる組成物において、当該zveg f3アンタゴニストが抗zveg f3抗体、分裂促進的に不活性なレセプター結合性zveg f3変異型ポリペプチド、および阻害性ポリヌクレオチドから成る群から選択される、癌細胞の増殖を減少するための医薬組成物。

【請求項3】

前記zveg f3アンタゴニストが抗zveg f3抗体および阻害性ポリヌクレオチドから成る群から選択される請求項1又は2に記載の医薬組成物。

【請求項4】

前記アンタゴニストが抗zveg f3抗体である請求項3に記載の医薬組成物。

【請求項5】

前記抗zvegfg3抗体が2つのポリペプチド鎖を有する二量体タンパク質に特異的に結合し、前記ポリペプチド鎖の各々が下記の残基から成る群から選択されるアミノ酸残基の配列から成る、請求項4に記載の医薬組成物：

配列番号2の残基230～345；

配列番号2の残基231～345；

配列番号2の残基232～345；

配列番号2の残基233～345；

配列番号2の残基234～345；

配列番号2の残基235～345；

配列番号2の残基236～345；

配列番号2の残基237～345；

配列番号2の残基238～345；

配列番号2の残基239～345；および

配列番号2の残基240～345。

【請求項6】

前記抗体がモノクローナル抗体である請求項4または5に記載の医薬組成物。

【請求項7】

前記モノクローナル抗体がIgG抗体である請求項6に記載の医薬組成物。

【請求項8】

zvegfg3アンタゴニストが抗zvegfg3抗体、分裂促進的に不活性なレセプター結合性zvegfg3変異型ポリペプチド、および阻害性ポリヌクレオチドから成る群から選択される、哺乳動物における肝細胞癌を治療する薬剤の製造におけるzvegfg3アンタゴニストの使用。

【請求項9】

薬剤が静脈内注入のために処方される請求項8に記載の使用。